公益社団法人**京都府介護支援専門員会** 理事
社会福祉法人**京都福祉サービス協会** 小川事務所 主任介護支援専門員
特定非営利活動法人**オレンジコモンズ** 理事
髙木はるみ TAKAGI_Harumi
主任介護支援専門員／介護福祉士／保育士／日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャー／日本認知症ケア学会認知症ケア上級専門士／DCM基礎マッパー
介護保険施行開始2000年から介護支援専門員として就労し，現在に至る。

ケアマネジャーがオレンジカフェ今出川のスタッフとしてかかわる意味

2012年２月２日に「京都式認知症ケアを考えるつどい」が開催され，京都文書，京都式認知症ケアの定義十箇条（**表**）が採択されました。

2012年９月，居場所型カフェ「オレンジカフェ今出川（以下，オレンジカフェ今出川）」は，認知症と診断された頃から介護保険サービス利用までのケア，いわゆる入り口部分にいる人のケアに取り組むために，若年性認知症の人が集える場所としてオープンしました（若年性認知症の人をケアする場所が極めて少ないため，若年性認知症の人をできるだけ優先している）。本稿では，このオレンジカフェ今出川で，ケアマネジャーが専門職ボランティアとしてかかわる意味について述べます。

表●京都式認知症ケアの定義十箇条

一，現状の課題をしっかりと分析し，それを踏まえたケア
一，現実に認知症を病む彼・彼女らの思いを常に忘れず包摂したケア
一，入り口問題を意識し焦点をあてたケア
一，経済的支援やソーシャルワークを通じて虚弱な家族を支えることができるケア
一，今までの生活や人とのつながりを大事にして暮らしを支えるケア
一，地域力や専門職連携を充実させ地域から排除される認知症の人を作らないケア
一，ハード・ソフト両面からの環境整備を通じて自宅に近い環境を整えたケア
一，身体疾患を持っていても必要な医療が受けられるケア
一，若年性や初期認知症の人とその家族に対し十分な対応力を持ったケア
一，認知症の人にかかわる専門職の待遇を保障するとともに認知症の人を支援する家族に安らぎをもたらすケア

京都式認知症ケアを考えるつどいホームページ：京都式認知症ケアの定義十箇条

オレンジカフェ今出川の概要

オレンジカフェ今出川は，京都市上京区にある「とねりこの家」を借り，原則毎週日曜日，10時30分から15時30分まで開いています（**写真１**）。店長は，京都大学医学部附属病院神経内科講師の武地一医師です。来店者からは，コーヒーや紅茶，お菓子代として100円いただきます（**写真２，３**）。

開店当初の来店者は，武地一医師の外来患者が主でしたが，現在その割合は７割程度となり，ほかの３割の人は別の主治医から紹介され来店しています。

オレンジカフェ今出川のスタッフは，認知症ケアにおけるフレンドシップ精神を重視し，登録ボランティアが中心となっています。開店当初の内訳は，大学生６人，市民ボランティア14人（最高齢は86歳），専門職ボランティア（ケアマネジャー，社会福祉士，看護師），学区社会福祉協議会関係者４人でした。

市民ボランティアは，認知症サポーター講座を修了した後，アドバンス講座を修了し，オレンジカフェのボランティアに興味を持った人たちです。

学生ボランティアは高齢者福祉を学ぶ学生の中から，認知症ケア，少子高齢社会の経済，ソーシャルビジネスに興味を持つ人たちです。なお，市民ボランティアと学生ボランティアは有償ボランティアとして参加しています。

写真１●オレンジカフェ今出川外観

写真２●お茶を飲みながら気軽に相談

写真３●談笑したり互いにデッサンしたりする

写真４●閉店後はスタッフの振り返りの時間

専門職ボランティアとしての役割

ボランティアの育成・OJT

オレンジカフェ今出川の開店に際し，まず，ボランティアを対象とした研修を行いました。開店準備段階の研修は２回，合計６時間実施しました。筆者はDCM（ディメンシアケアマッピング）基礎マッパー※1であるため，講義と映像を用いて，認知症ケアの基本である「パーソン・センタード・ケアの視点」の講義を２時間担当しました。この研修では，「認知症の人が，その人を取り巻く人々や社会とかかわりを持ち，人として受け入れられ，尊重されていると本人が実感できるように共に行っていくケア」の重要性を伝えました。

オレンジカフェ今出川が開店してからは，当日の来店者の情報共有を目的に開店前ミーティングを10時から10時30分まで行い，来店中の様子を共有するために閉店後ミーティングを16時から17時まで行っています（**写真４**）。

開店前，コーディネーターの役割を担う社会福祉士が，当日来店する認知症の人の近況をボランティアに伝えます。その際に専門職ボランティアの役割として重要なのが，病状と病状進行に応じ

※1　イギリスのブラッドフォード大学の故トム・キッドウッド教授が提唱したパーソン・センタード・ケアの理念を実践するために考案されたこの研修を受けたDCM使用者をマッパーと呼びます。

たかかわり方のポイントを助言することです。閉店後のミーティングでは，来店した認知症の人がどのように過ごしていたか，どのようにかかわったかを一人ひとりのボランティアが伝達し共有する時間を持ちます。

オレンジカフェ今出川が開店した当初，認知症の人と直接かかわった経験がほとんどない市民ボランティア，学生ボランティアにとって，その人が発する言葉が重要であると理解することが大変難しい状況でした。そのため，その人が発する言葉を聴くこと，姿を見ることを目的にセンター方式アセスメントツールＣ－１－２を活用し，「本日の○○さん」を実際に描く作業を行いました。数回実施する中でさまざまな言葉が聴き取れるようになり，言葉を集約して「オレンジカフェみんなのつぶやき」としてオレンジカフェ今出川の壁面に掲示しています。それぞれのつぶやきには，「たまには飲みに行きたい」「覚えていることを前提に話さないでほしい」などと書かれており，認知症の人の本音が見て取れました。これらのつぶやきを聴き取り掲示することで，ボランティアスタッフの聴き取ることへの意識が高まりました。

学生ボランティアは，現在３期目となり，新たに入店したスタッフの育成が課題となっています。

認知症の人は自己表現をすることが難しいため，自己表現の方法として認知症の人のアクティビティ「アートワーク」※2を定期的に実施しています。「アートワーク」を実施する際は，市民ボランティアと学生ボランティアが，認知症の人が自己表現をスムーズにできるように手伝いますが，その際に重要なのは，スタッフが手を出し過ぎないこと，口を出し過ぎないことを事前のミーティングで伝えることです。

家族の葛藤の受容と緩和

オレンジカフェ今出川には認知症の人が一人で来店する場合，本人と家族（妻・夫・子ども）が一緒に来店する場合，家族（妻・夫・子ども）のみが来店する場合があります。認知症の人を抱える家族の悩みはさまざまであり，相談内容もさまざまです。具体的には，認知症の診断を受けたが，介護保険サービス利用はどのような方法をとればよいのか，介護保険認定結果が出たもののどんなサービス利用ができるのか，本人のBPSDが強く出ている場合，どのように接したらよいのか教えてほしいなどの相談が寄せられています。それぞれの相談には個別に時間をとり，地域で就労しているケアマネジャーが相談援助にあたります。

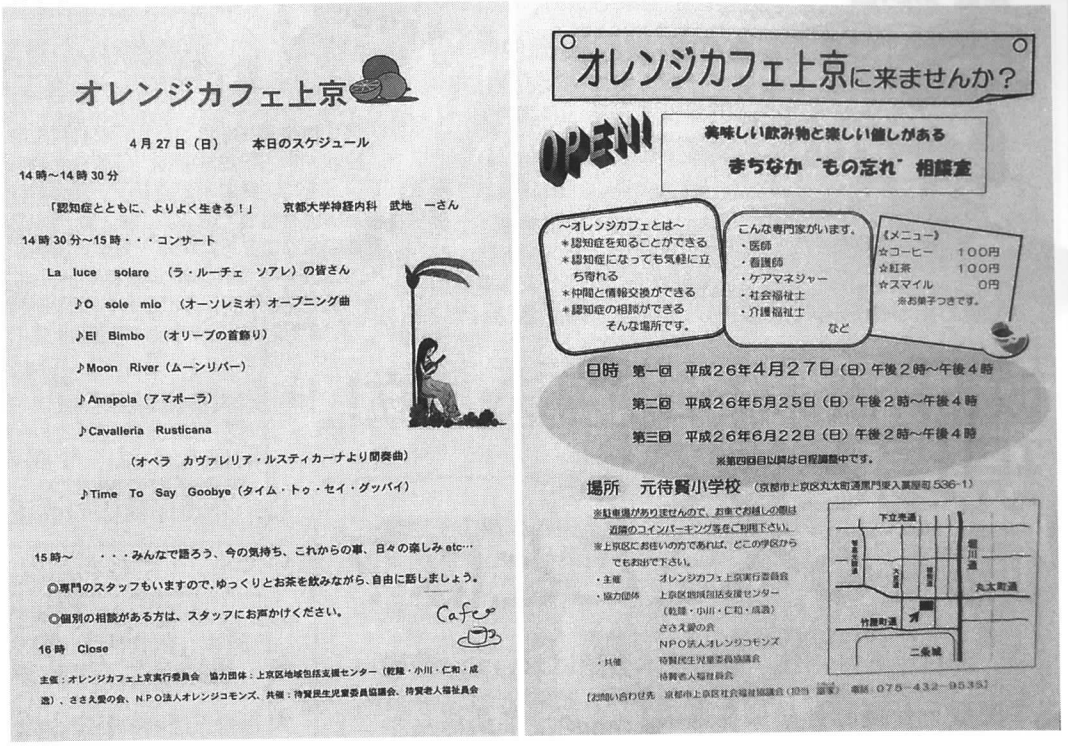
初回の面談で「昔の夫の姿を思い出すと悲しくなる」と言っていた妻が，何度か面談を重ねるうちに「これから先，いろいろあるかもしれないけれど，その時その時で対応を考えればよいのですね」と発言内容に変化が現れるようになりました。

地域型カフェ「オレンジカフェ上京」

2012年９月にオレンジカフェ今出川が開店して以来，任意団体として活動していました。その運営の中で，筆者らは認知症を生きる人とその家族にとって認知症カフェが必要であると確信するに至り，2014年４月に特定非営利活動法人オレンジコモンズを設立，同時に理事に就任しました。特定非営利活動法人オレンジコモンズの事業として，2014年５月，認知症の初期ならびに若年性認知症の人やその家族が集い，悩みの相談や互いに支援する場所として地域型認知症カフェ「オレンジカフェ上京（以下，オレンジカフェ上京）」の運営を開始しました（**写真５**）。

※２　アクリル絵の具，スポンジ，色画用紙，画用紙を用いて季節の野菜や果物をモチーフにして制作します。

写真５●オレンジカフェ上京オープン当日のスケジュール



オレンジカフェ上京は，上京区にあった元・待賢小学校校舎を借りて，月１回，日曜日14時から16時まで開催し，専門職のミニレクチャーやボランティアによるコンサート，飲み物を飲みながら会話をして過ごします。

協力団体は上京区内の地域包括支援センター，ささえ愛の会（上京区内の通所介護の団体），上京区の訪問看護ステーションで，共催は民生児童委員協議会，老人福祉員会です。事務局は上京区社会福祉協議会が担当しています。

オレンジカフェ上京では，筆者は特定非営利活動法人オレンジコモンズのメンバーとしてカフェ運営を担います。また，地域のケアマネジャーとして持つつながりを活用して，協力団体の専門職のさまざまなコーディネートを行っています。

地域のケアマネジャーがオレンジカフェにかかわる意味

「京都認知症総合対策推進計画 京都式オレンジプラン」には，次の３つの視点があります[1)]。

Ⅰ．すべての人が認知症のことを正しく理解する

Ⅱ．「予防・初期～ターミナル期」までとぎれない認知症の医療・介護の仕組みづくり

Ⅲ．認知症の人，家族と地域を支える人材の育成

地域のケアマネジャーとして，自分自身が今まで培った認知症ケアに関するスキルをスタッフの育成のために活用することが必要です。オレンジカフェ今出川では，ボランティア研修を実施することやOJTを担うこと，「アートワーク」の取り組みを通して，スタッフのスキルが向上した手ごたえを感じています。

認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには，認知症の人や家族の気持ちを理解し，本人と家族本位のケアができるスタッフを育成することが重要であり，それを実践していくことが地域のケアマネジャーの大きな役割であると考えています。

これからも「京都式オレンジプラン３つの視点」を意識しながら，地域のケアマネジャーとしてオレンジカフェ今出川，オレンジカフェ上京にかかわり続けたいと思います。

引用・参考文献
１）京都地域包括ケア推進機構：京都式オレンジプラン―京都認知症総合対策推進計画―（平成25年９月）
http://www.kyoto-houkatucare.org/wordpress/wp-content/uploads/2013/10/kyoto_orangeplan.pdf（2014年６月閲覧）
２）京都式認知症ケアを考えるつどいホームページ：京都式認知症ケアの定義十箇条
http://kyotobunsyo2012.jimdo.com/%E7%AC%AC%EF%BC%91%E5%9B%9E-%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%BC%8F%E8%AA%8D%E7%9F%A5%E7%97%87%E3%82%B1%E3%82%A2%E3%82%92%E8%80%83%E3%81%88%E3%82%8B%E3%81%A4%E3%81%A9%E3%81%84/%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%BC%8F%E8%AA%8D%E7%9F%A5%E7%97%87%E3%82%B1%E3%82%A2%E3%81%AE%E5%AE%9A%E7%BE%A9%E5%8D%81%E7%AE%87%E6%9D%A1/（2014年７月閲覧）
３）認知症介護研究・研修大府センター監修：DCM（認知症ケアマッピング）理念と実践８版日本語版，2012.